

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・井上 写真・後藤
山行NO 1866	
日時 2020年5月17日(日)晴・高温	
山域 西丹沢・檜洞丸(1601m)・小笄(ここうげ)南西尾根～檜洞丸～石棚山稜・1450m峰 ・北西尾根	
コース 長泉6:00—竹沢6:05—西丹沢・自然教室7:25—小笄南西尾根—シカ柵—縦走路10:30 —檜洞丸11:42～12:46(昼食)—石棚山稜1450m峰北西尾根—シカ柵・二箇所—東沢 15:30—自然教室15:51—丹沢湖反省会	
標高差 上り 自然教室・約550m～檜洞丸1600m＝約1050m 下り 檜洞丸1600m～自然教室・約550m＝約1050m	
藪漕度 上り 最後の岩場にバラッカジが少しあるのみ 下り なし	
難易度 非常に困難 レ困難 やや困難 普通 やや易しい 易しい	
<b>西丹沢最強バリとシロヤシオ・サクラソウ</b>	
参加者 後藤、加藤、井上＝3名	

COVID-19の新規感染者がピークを越え減少気味になり、静岡県などは緊急非常事態宣言を解除した。しかし、これからようやく簡易検査が導入されるようで、ようやく他の諸外国が初期から行っていた状況になるだけのことで、感染者数が減る道理がない。

自粛、自粛で自宅に引きこもった民衆のストレスは爆発寸前。みんな出かけたくてしょうがない。政府が示す新しい生活習慣に、出かけるなら屋外とある。ならば、人のいないバリエーションはもってこいだ(今回の言い訳)。

結果として、バリエーションルートでは誰とも会わなかった。丹沢湖近くに来ると、道路上の電光掲示板で「神奈川に来ないでください」の表示を見た。従来は「ようこそ神奈川へ」だったのだろうか。明確なアピールにびっくりした。多少は効果あるだろう。



西丹沢自然教室の駐車場はロープで閉鎖。道路の反対側には車を止められるスペースがあり、ほぼ満車。10台くらいか。車道にはみ出さないように車列の最後尾に駐車した。隣の車の2人は沢登りのスタイルだった。

7:25 スタート。「ウエルキャンプ西丹沢」を回り込んだ先の一般道登り口の標識から入った。(注・1) 沢の水のない所が道になっており、やがて左の尾根のトラバースルートに入る。単独の登山者が2人抜いていった。加藤さんは、歩き始めから急登だとふくらはぎが痛むため、ゆっくり登ることを希望。

私はこのルートは初めてだったので、先頭となり、スピードが速くならないように注意した。680mの小ピークで一般ルートから離れ、私たちのバリルートはここから尾根に乗る。ちなみに、私は先週、高度計のついた腕時計を紛失して、高度がわからないので、先頭に行くが、現在地がわかりにくくなっていた。いつもは高度計の高度と地形図で現在地がわかるが、今日はコンパスと地形図だ。やってみるとこれが意外と現在位置がわかる。

コンパスを見直した。高度計は表示が遅れたり、気圧の変化で数値が変わるのでアバウトなところがあるが、コンパスはうそつかない。見たままの尾根の向きとコンパスの北は完璧だ。ずれがない。



キノコ??

尾根筋を進むので迷うことはない。新緑に囲まれている。空は真っ青。今日は気温が上がる予報。日差しが強い。緑の隙間から森の中に光の筋が神秘的に差し込む。天使でも降りてきそう。うっすらともやがかり幻想的。ゆっくり登るので、息もひどく切れない。空気はひんやりと気持ちよい。

ただ、蠅かなにかの虫がぶんぶん顔の周りを飛ぶ。休憩で、後藤さんはキジ撃ち(トイレ大きい方)し、使用した紙をちゃんと持ち帰った(ちゃんと記録に書くようにと言われた)。(注・2)

鹿のうんちはいっぱい落ちている。鹿が食べたであろう草は、草刈り機で刈ったように地上から同じ高さにそろっている。足跡は、鹿やもう少し大きい何かの生き物のもので、人間の足跡はない。

動物だけの世界に足を踏み入れたようでうれしくなる。植林の杉がなくなると、ゆったりとした尾根にブナが好きなように生えている。ブナの花は終わったようで、たくさんの実がついていた。(注・3) シロヤシオが咲いていた。

結果的には、最初に見たシロヤシオの花が一番大きく、上に行くほど花が小さく、頂上付近はつ





緑したたる



シロヤシオ





ブナ結実

ぼみが多かった。緑一色だった世界に白い花で癒される。よく見ると、たくさんの黄色いオシベに1本の緑色のメシベがある。ミツバツツジもあり、こちらはきれいな濃い紫色。小笄のピーク手前はかなりの冒険コース。岩交じりの急登。岩は、石器のようにシャープに割れているので、うかつに触るとけがをしそう。それに加えてイバラがあるため、「いてっ、いてっ」と言いながら登る。

ここでは、自分のペースで登らないとむしろ危険なため、目の前の斜面に集中してぐいぐいと体を持ち上げた。岩場の途中に「もう大丈夫」と赤スプレーで書かれていたが、安心するにはまだ早い所だったので、気を緩ませるのはやめてしい。(注・4)

小笄は1288mの山で、その少し南の1385mのピークに上り詰める。ここからは大笄までの間、岩場の陰にピンクのサクラソウがあちこちに咲いていた。完全に開くと直径3センチほどで、花弁が一枚ずつハートの形に見える。いいです。癒されます。





右側は崩壊が進行中の崖である。1510mの大笄を過ぎると犬越路からの縦走路にでる。人が通る道だ。歩きやすい。それもつかの間、やがて植栽保護のための木道や階段になる。階段は、安定しているが、段差の分だけ足を上げないと引っかかるので（当たり前だが）、ただの斜面を歩く時より足を大きく上げるのでその分疲れる。階段は何も考えなくても足の置き場が次々とやってくるので、機械的な動きになる。スポーツジムで階段を上るようなトレーニング用マシンでひたすら足を踏みかえているような感覚になり、歩かされている気になりうんざりする。

檜洞丸の最後の登りの前に一度50mほど下り、1470mから1601mまで約130m木道と階段を登る。いやーしんどい。縦走路では数人とすれ違う。後藤さんが最後を歩き2人が登っているところを離



小笄尾根を俯瞰



10月 18-21  
この植生回復林は、神奈川県が取り  
組む水害林土壌保全対策事業の一環として、高標高域自然林の植生を、自然  
の力で回復させることで、土壌を保全  
することを目的としています。  
神奈川県自然環境保全センター  
自然環境保全課自然回復課

**植生回復中です**

路肩による土壌侵食を  
防止するため登山道以  
外は歩かないで下さい。

神奈川県自然環境保全センター 自然環境保全課自然回復課





檜洞丸、最後の上り

れて写真にとるので、少し遅れる。頂上直前で加藤さんは、師匠が追い付くのを待ち、後藤さんが先に頂上に到着するようにする。加藤さんのゆずれない決め事だ。

檜洞丸頂上到着。ベンチが10か所ぐらいあるが、皆使用されている。コロナ自粛がなければ、もっと人でいっぱいだろう。

数か所に木枠で2mくらい四角く囲われた中に砂利が敷いてあるスペースがある。目的が分からない。ベンチを使い、シートも広げて靴と靴下を脱ぐ。いい解放感。今回からビールを凍らせてきた。ここまでの間、休憩ごとに解凍状況を見て、ザックの中で置き場所を変え、最後はザックの外に入れベストコンディションにもってきた。その甲斐あり、うまいビールが飲めた。ビールは冷たいほうが良いが、溶けずにシャーベット状ではまずい。

後藤さんからは、絶妙ゆで加減のソラマメとタンとコブクロの炒め物をいただき、加藤さんからは、骨付き鶏肉を煮たものをいただいた。ビールにバッチリでした。ごちそうさまでした。

話題の中で、今回は不参加だったが星さんは、山をやる前はテニスをしていたから体力があるという話をして、そういえば後藤さんが山をやる前の話を聞いたことがなく、聞くと、中高とバスケットをしていたようだ。後藤さんがドリブルしてシュートしている姿が想像できない。また、加藤さんの武勇伝として驚いたのが、加藤文太郎の真似をして、どこでも眠れるように2か月家の中のあちこちでシュラフで眠り、娘さんにあきられたとのこと。おそるべし。

後藤さんは昼寝をご所望だったが、私と加藤さんの話声で眠れず、1時出発予定は前倒しで下山を開始した。まずは一般道の木道をゆく。バイケイソウが群生し、葉っぱの模様がきれい。





休憩スペース??

檜の標高は、1601m

ここには昔、家族できたことがあり、木道を歩きながら次女が頭をぶつけた木の枝を見て、懐かしく思い出した。あれは、家族4人で富士山に登る計画をして、1月から毎月登山をしていた時だから、長女が小学6年生で次女が小学4年生で今から12年前だ。

木道の分岐点を間違えてつつじ新道の方へ行きかけた。ユーシン(溪谷)との分岐を過ぎて、1351mの石棚山に続く尾根の石棚山稜を下る。1450mの小ピークで右折し西に向かい、東沢へ降りる尾根を下る。鹿柵の中に皮のないつるつるの幹で、Z型に曲がっている変わった木があった。なにがあったらあんな風に曲がるんだろう。

石の多い斜面を下る。(注・5)木の枝、砂、小石で滑りやすい。何度かずるっとすべったので試しに姿勢を変えてみたら快適に下ることができた。前のめりかと思うくらい前傾すると、靴のエッジが楽に効き、重心が靴の真上に乗るのですべらない。なんともさっさと下りられるではないか。尾根の北側の斜面のブナが大パノラマスクリーンで新緑を展開。目の前が全て新緑。

ここでも非常に面白い形をした木に会った。はじめは竜の顔のようだったといていたが、回り込んでみると何とも愛嬌のあるロバのようだ。こんな自然の造形をみて、あれに似てる、これに似てる



ゾンビ・ブナ??





1450m峰・北西尾根

と言っているととても癒される。長い尾根をひたすら下り、やがて真っ白な石の東沢にでた。あとは駐車場までほぼ水平移動だ。

恒例となっている丹沢湖湖畔での反省会。途中の酒屋でビール、日本酒、ノンアルビールを買いベンチでまったり。前回使えた公園の駐車場は門が閉じられており、その門の前に駐車して湖畔のベンチで休憩。ベンチの近くに白バイに見える白黒カラーのスクーターがとめてあり、後藤さんが持ち主が警察かどうか確かめに話しかけたが、運動のためにランニングに来た小山町の方だった。バリエーションをやった話をしたらその人も好きらしく、会の名刺を渡した。途中、レスキューと思われる消防車と救急車が山の方へ北上した。その後、ドクターヘリが山から飛んできて南の方へ行った。だれか、やっちまったなあ。コロナ騒ぎでヘリに乗るのも、搬送先の病院も大騒ぎになるだろう。頂上では登山に慣れた人ばかりではなく、簡単な運動靴に半袖Tシャツの若い衆も見られた。あれじゃあなあ。捻挫もするし、滑って転ぶこともありうる。靴ぐらいはちゃんとしたものを履くべき。

一通り飲み食い終わったころ、近くの駐在所から私服の警官が来て、車を停めた場所について近所から苦情が来たので移動してほしいといわれた。十分に休憩ができたのでこれをきっかけに帰ることにした。帰りは、富士山がよく見えた。小山町辺りでは雪が増えているように見えたが、長泉近くになり、宝永火口側をみると雪は減っているように見えた。





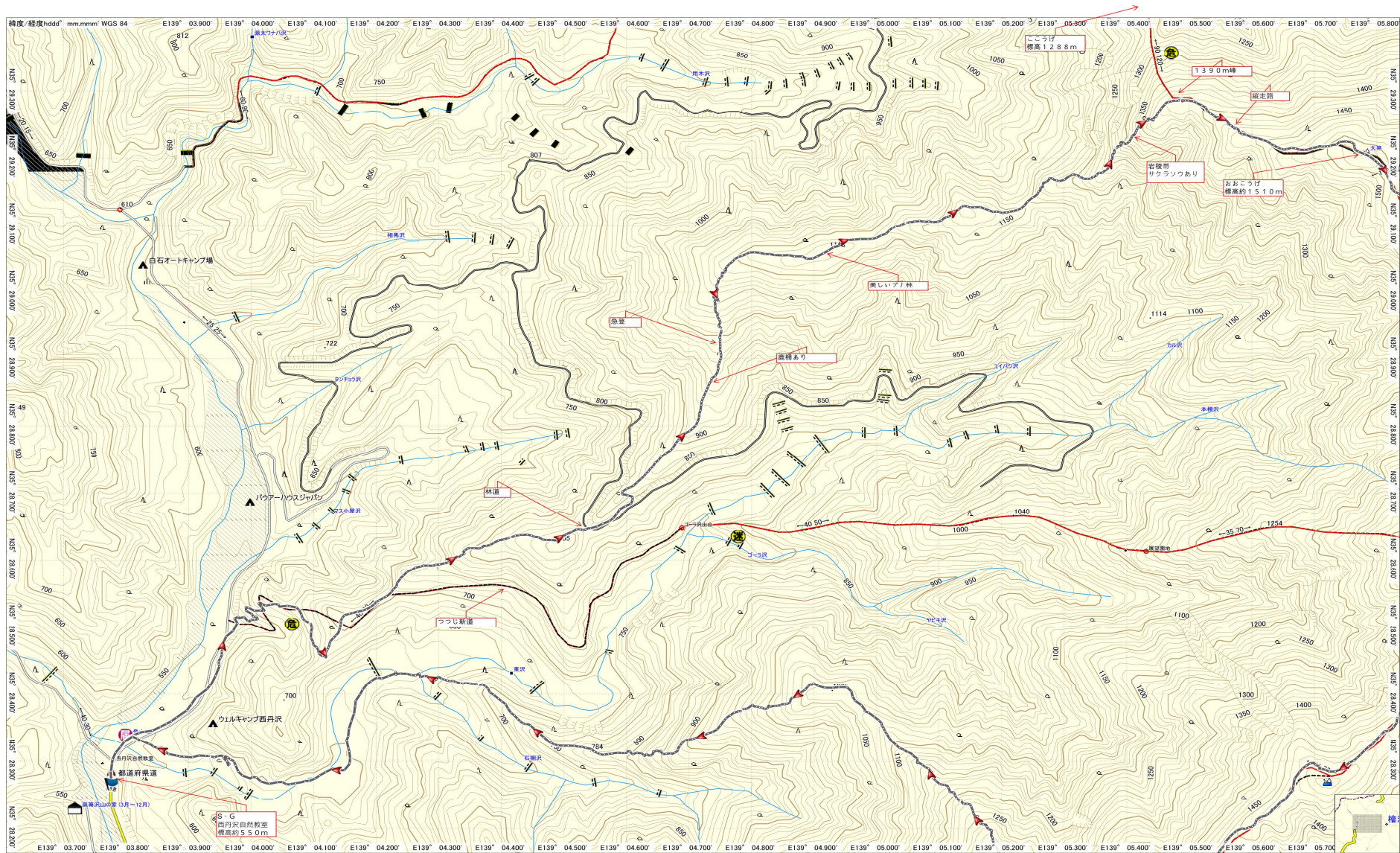
檜洞丸頂上



#### その他の記述（後藤）

- 注・1 登山道入口に神奈川県「登山を自粛して下さい」の看板とトラロープが張ってあった。
- 注・2 昔は、前穂北尾根・剣・真砂沢とか「もの」を背負って持ち帰ったが・・・。
- 注・3 ここ何回か「ブナ開花」を観察したが分からなかった。樹木が大きいと双眼鏡がないと観察できない。今回観察したものは、すでに結実していた。人差し指大だったことを考えると、開花は、4月中旬頃か??ただ、ネットで開花写真を見たら、当日、稜線で観察した「ゴミ」みたいなのが（失礼）花だった可能性がある。
- 注・4 尾根を初めて訪れた、2018. 3/11には、この「落書き」はなかった。赤のマーキングも尾根の最初からあった。何処の誰の「作品」か不明だが、丹沢の他のバリエーションでも見られた。そもそも、バリエーションにマーキングは不要だ。バリエーションは一般登山道でない。ルートの間違ったり、考えたりするから面白いのだ。近年、甲斐駒・鋸岳、槍ヶ岳・北鎌尾根の報告もある。山岳に不必要な反自然行為は絶対行うべきでない。昔あった「福岡だかの何とか猿」は、最近見られなくなったが・・・。
- 注・5 標高点・1065m峰を西南に下る尾根。ここだけ何故岩が多いのか不思議で不明。



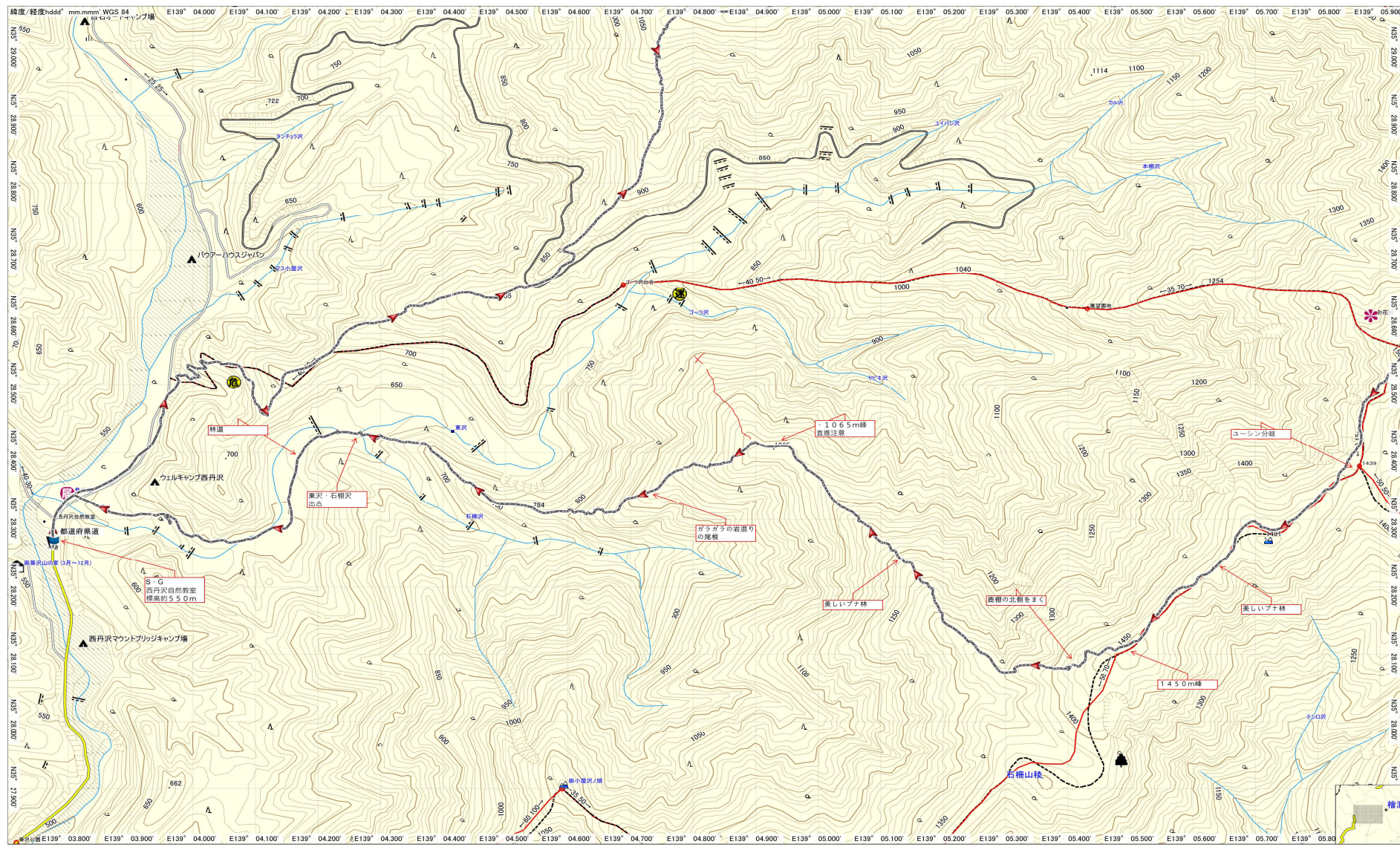


Open Topo 10M Plus V3  
Copyright © 1999-2014  
Garmin International, Inc.

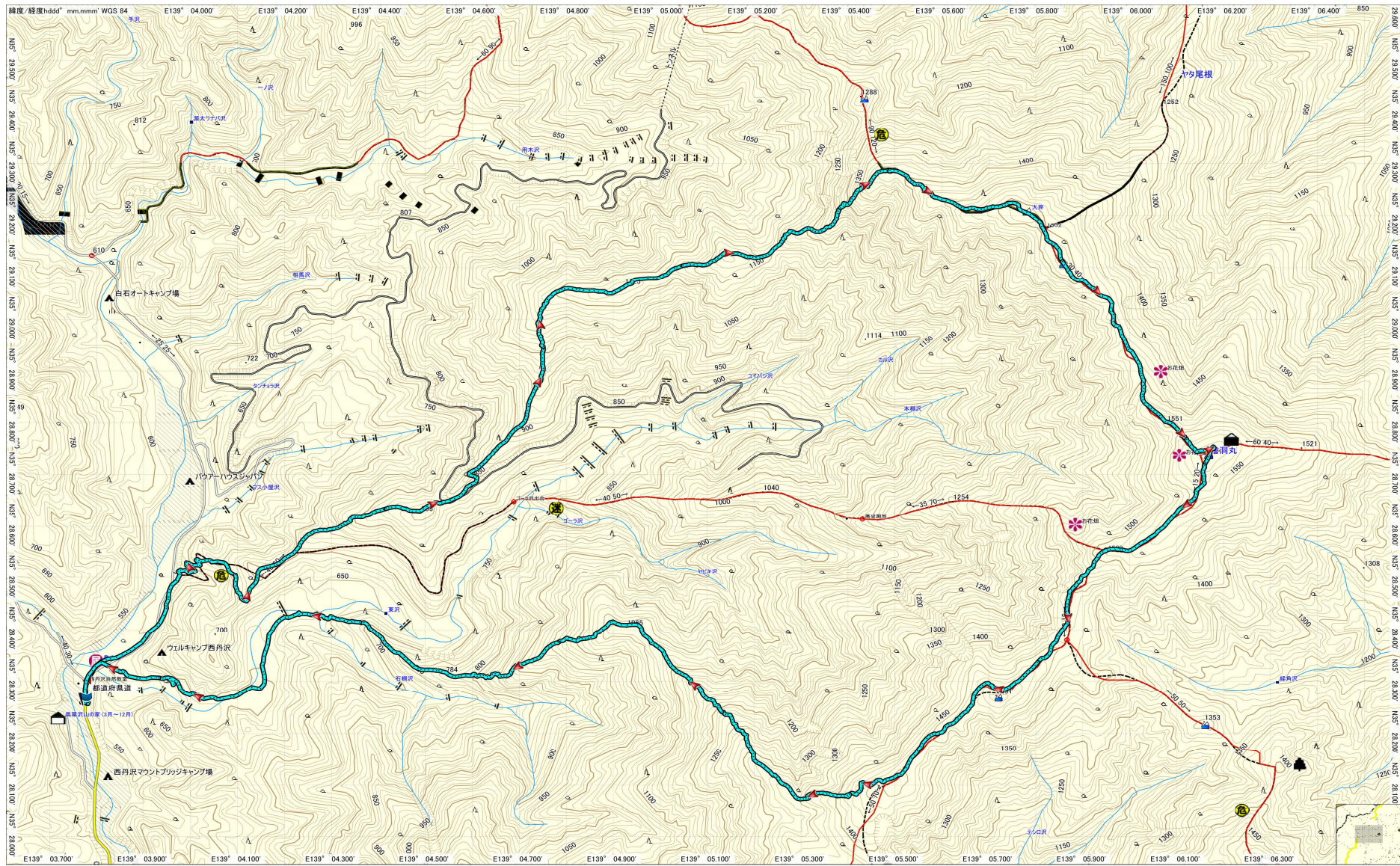
2020/05/18 8:10:11

GARMIN









Japan Topo 10M Plus V3  
© 2019 Garmin Ltd. All Rights Reserved.  
Garmin Topographic 10M Plus V3

2020/05/18 8:10:11

0 100 200 300 400 m  
GARMIN  
8888 88